

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 35)



なす・トンネル栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

なすの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、促成栽培、半促成（短期）栽培、半促成（長期）栽培、トンネル栽培、露地栽培で設けられています。

トンネル栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素成分量）は、表1のとおりです。



▲ なすのトンネル栽培

表1 なす・トンネル栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成24年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
トンネル	15(13)	23	3,900	1,500	900	5,000

注) カッコ内は購入苗の場合

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

病虫害防除では、まず、前年までや当年の病虫害の発生状況の観察結果から、防除する必要がある病虫害を把握しておくことが重要です。殺虫剤の使用を削減するには、天敵の発生を促すソルガム等のインセクタリープランツ(天敵の住みかとなる植物)を活用することが効果的です。

また、化学合成農薬を削減するためには、うどんこ病や灰色かび病に対してはインプレッション水和剤等の微生物農薬、アブラムシ類に対しては粘着くん液剤など「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬を活用するとよいでしょう。

A ほ場準備と育苗期 ～天敵を呼び込むインセクタリープランツを利用～

●抵抗性台木等の利用

「台太郎」は青枯病や半枯病に抵抗性を有しています。「トルバム・ビガー」や「トナシム」は、さらに半身萎凋病とネコブセンチュウに抵抗性があります。これらの病虫害が前年に発生したほ場で栽培する場合は、これらの台木の接ぎ木苗を利用します。

●インセクタリープランツの播種

アブラムシ類やアザミウマ類の天敵である蜘蛛類やハナカメムシ類等の住みかとなるインセクタリープランツを利用します。低温期でも生育できるシロクローバーは2～3月頃、夏に生育が旺盛となるソルガムは5月上旬頃に、ほ場の周囲へ播種します。



▲インセクタリープランツの利用

B 定植から収穫開始前 ～粒剤施用で農薬散布を減らす～

●定植時には粒剤施用、病害予防に微生物農薬

定植時にスタークル粒剤等を植穴施用することで、生育初期のアブラムシ類やコナジラミ類などの害虫の発生を防ぎます。うどんこ病や灰色かび病には、発生前に予防的にインプレッション水和剤を散布します。

C 収穫期 ～天然由来成分等の農薬の利用～

●アブラムシ類やヨトウムシ類・タバコガ類の防除

生長点付近の葉を中心に観察し、アブラムシ類の寄生が見られたら、粘着くん液剤やサンクリスタル乳剤など天敵に比較的影響の少ない薬剤を散布します。トンネル除去後から入梅前に、アブラムシ類の密度が異常に高まることがあります



▲ハスモンヨトウ

ますが、この場合はダントツ水溶剤等のネオニコチノイド系の殺虫剤を寄生部分（ほ場の一部分に見られる場合）もしくは全面に散布します。ハスモンヨトウやオオタバコガの防除にはBT剤であるゼンターリ顆粒水和剤等を利用します。

表2 なす・トンネル栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病害虫	備考
	土壌消毒	D-D	15~20L	ネコブセンチュウ	発生に応じて使用
4月上旬	定植	スタークル粒剤	1g/株	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	
5月中旬	収穫	※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※粘着くん液剤	100倍	アブラムシ類	発生に応じて使用
6月上旬		ベルコートフロアブル	2,000倍	うどんこ病 すすかび病	
		ダントツ水溶剤	2,000倍	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	発生に応じて使用
6月下旬		※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※コロマイト水和剤	2,000倍	ハダニ類	発生に応じて使用
7月上旬		※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	オオタバコガ	発生に応じて使用
7月中旬		※コロマイト水和剤	2,000倍	ハダニ類	発生に応じて使用
7月下旬		アフーム乳剤	2,000倍	オオタバコガ アザミウマ類	発生に応じて使用
8月上旬		※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※サンクリスタル乳剤	300倍	アブラムシ類	発生に応じて使用
8月下旬		※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	オオタバコガ アザミウマ類	発生に応じて使用
9月上旬		※インプレッション水和剤	500倍	うどんこ病 灰色かび病	
		※スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	オオタバコガ アザミウマ類	発生に応じて使用

※印は、「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬

2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施用例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、前作の残肥等によって必要な施肥量が異なりますので、実際の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 なす・トンネル栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥と肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみから堆肥				3,900			
基肥	マイルドユーキ030	10(4.7)	13	10	259	25.9(12.2)	33.7	25.9
	なたね油かす	5(0)	2	1	191	9.6(0.0)	3.8	1.9
	BMようりん	0	20	0	18	0.0(0.0)	3.6	0.0
	硫酸加里	0	0	50	15	0.0(0.0)	0.0	7.5
	苦土石灰				100	0.0(0.0)	0.0	0.0
定植時	燐硝安加里	16(16)	10	14	5	0.8(0.8)	0.5	0.7
追肥	燐硝安加里	16(16)	10	14	63	10.0(10.0)	6.3	8.8
総施用量						46.3(23.0)	47.9	44.8

注) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成23年度現地実証試験時点のもので、実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

なお、栽培基準は平成24年4月改訂後のものを記載しています。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成25年1月

■ 内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター
TEL. 043(291)9987



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

CHIBAちば